

付着生物ラーバ情報

キヌマトイガイラーバが出現し、増加しています

1 1月中～下旬のラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2～5のとおりです。

(1) ユウレイボヤラーバ

奥内で0.8個体/m³、久栗坂で0.6～1.1個体/m³、野辺地で0.8個/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイラーバ

奥内で65.0～67.5個/m³、久栗坂で26.1～27.8個体/m³、野辺地で4.7～25.0個/m³、川内で57.8個/m³見られました(表1、図3)。

(3) キヌマトイガイラーバ

奥内で2.5～18.3個/m³、久栗坂で1.1～118.9個/m³、野辺地で0.8～531.3個/m³、川内で185.9個/m³見られました(表1、図4)。

(4) マボヤラーバ

奥内で0.8～5.8個/m³、久栗坂で0.6～2.2個/m³、野辺地で0.8個/m³見られました(表1、図5)。

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

10月以降の累積ラーバ出現数は、奥内で4.0個体/m³、久栗坂で4.7個体/m³、野辺地で7.9個体/m³、川内で0.0個体/m³です。付着数が多くなる目安である5.0個体/m³を上回る海域では、出荷時期に大量付着し作業効率が低下する可能性があります。

また、陸奥湾の中層水温は西湾で8～9°C台、東湾で2～7°C台となっています。西湾ではユウレイボヤが産卵する8°C以上の水温となっている海域があることから、今後もラーバの出現が継続する可能性があります。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバの養殖籠への付着は少ないことが分かっています。

(3) キヌマトイガイ

ラーバが増加している海域では、今後、大量付着する可能性があります。

(4) マボヤ

ラーバは9°Cを下回ると活性が低下し泳げなくなることから、ほとんどの海域で付着終盤であると考えられます。

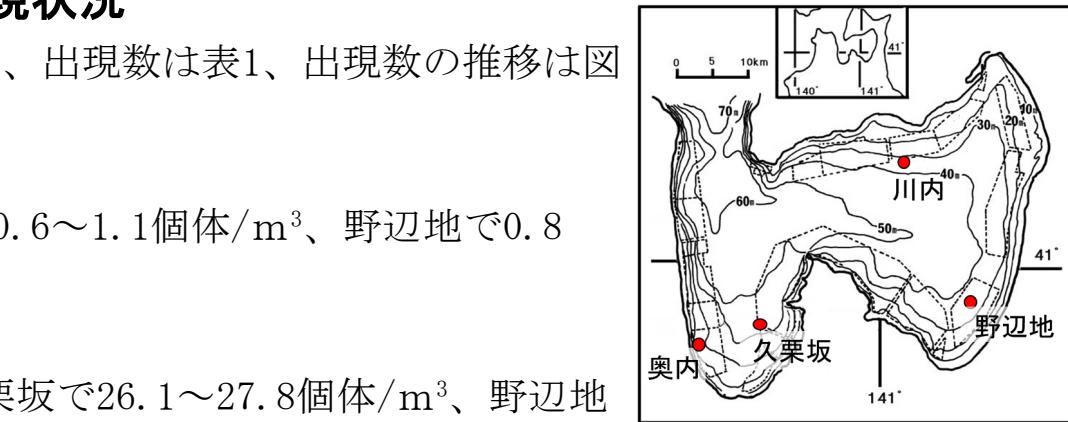


図1 付着生物ラーバ調査地点

表1 令和8年1月中～下旬のラーバ等出現数

単位:個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキ イガイ	キヌマ トイガイ	マボ ヤ ラーバ	卵
奥内沖	1月13日	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0
	1月19日	0.0	67.5	18.3	5.8	0.0
	1月27日	0.0	65.0	2.5	0.0	0.0
久栗坂沖	1月13日	0.6	26.1	1.1	0.6	0.0
	1月19日	1.1	27.8	118.9	2.2	0.6
野辺地沖	1月13日	0.8	4.7	0.8	0.0	0.0
	1月19日	0.0	25.0	531.3	0.8	0.0
	1月26日	0.0	16.4	154.7	0.0	0.0
川内沖	1月19日	0.0	57.8	185.9	0.0	0.0

